

EQUIPMENT style 02

デザイン美を追求した、 大きなガレージを併設した家

N邸 大阪府

大阪府茨木市。昔からの閑静な高台の住宅地に、RC造の大きなガレージハウスが建築された。垂直のラインのなかに、丸みを帯びたタワーがそびえ立つ。シンプルなデザインのなかに美を求めながら、プライバシーと開放感を両立させている。

photo/Kaigo-KIMURA (木村圭吾) text/Jun-ISHIHARA (石黒淳) (GarageLife55号掲載)
special thanks to SAETYLIFE

直線美の美しい建壁に、丸みを帯びたシンボルタワーがそびえるN邸。南側はガラスで覆われ、開放感のある建物設計となっている。



EQUIPMENT style 02

シンプルなガレージのなかに、
挿し色が決まった空間。

今回、設計されたN邸は高台に位置しており、外観はプライバシーが保たれた塙壁で覆われているように見えるが、南面が開放的に開いていて高台のため、全面ガラスとなっているなど非常に開放的な空間が広がっている。昔からドイツ車を中心にドライブしていて、8台の愛車がマンションの駐車場、実家、会社と分散していたため、1か所にまとめられないかとガレージを要望した。また防音を含めて優れているRC造、いわゆる打ちっぱなしを希望して、昔から付き合いのある建築家・天藤建築設計事務所へ依頼した。

Nさんが所有するクルマ、ボルシェは公道のレーシングカーと呼ばれるボルシェ 993 GT2。世界選手権やルマン出場のためのホモロゲモデルとし

て開発され、100台しか一般に販売されなかったという名車。もう1台がボルシェ 964 ターボ 3.6 というどちらも走りに特化した2台。オーナーのNさんも、仕事のリフレッシュを兼ねて淡路島くらいまで奥様とドライブを楽しんでいるという。どうしてもこの2台は、ガレージに収めたいこと、そしてリビングからディテールを楽しめることも今回のガレージ造りのポイントとなった。

建築家・天藤さんもボルシェのドライブをするため、リビング・ダイニングからガレージの見え方にはこだわった。ペアガラスから、さりげなくクルマが見えるようにしたところは施主のNさんも気に入っている。また8台をガレージに収めるには無理があるのでガレージには最大5台。通常のク

ルマは玄関前のアプローチに駐車するなどメリハリを付けている。そのため、N邸には邸宅の前にブルーにペイントされたガレージドアが1枚設けられ、ガレージ前にもレッドにペイントされた電動シャッターを設ける構造となっている。

「天藤建築設計事務所」は、個人住宅だけではなく公共施設、商業建築も行っているためデザイン美に優れている建築設計が多い。そのため、今回のガレージにも美を追求していることがよく分かる。床に貼られたタイルはクラシックな雰囲気を感じるヘリボーン貼りを採用。ガレージで暖気したときに排出されるガス対策として、『セーフティライフ』のEG Way Outが導入された。隣家との関係もあり、今回はパイプを延長した特別

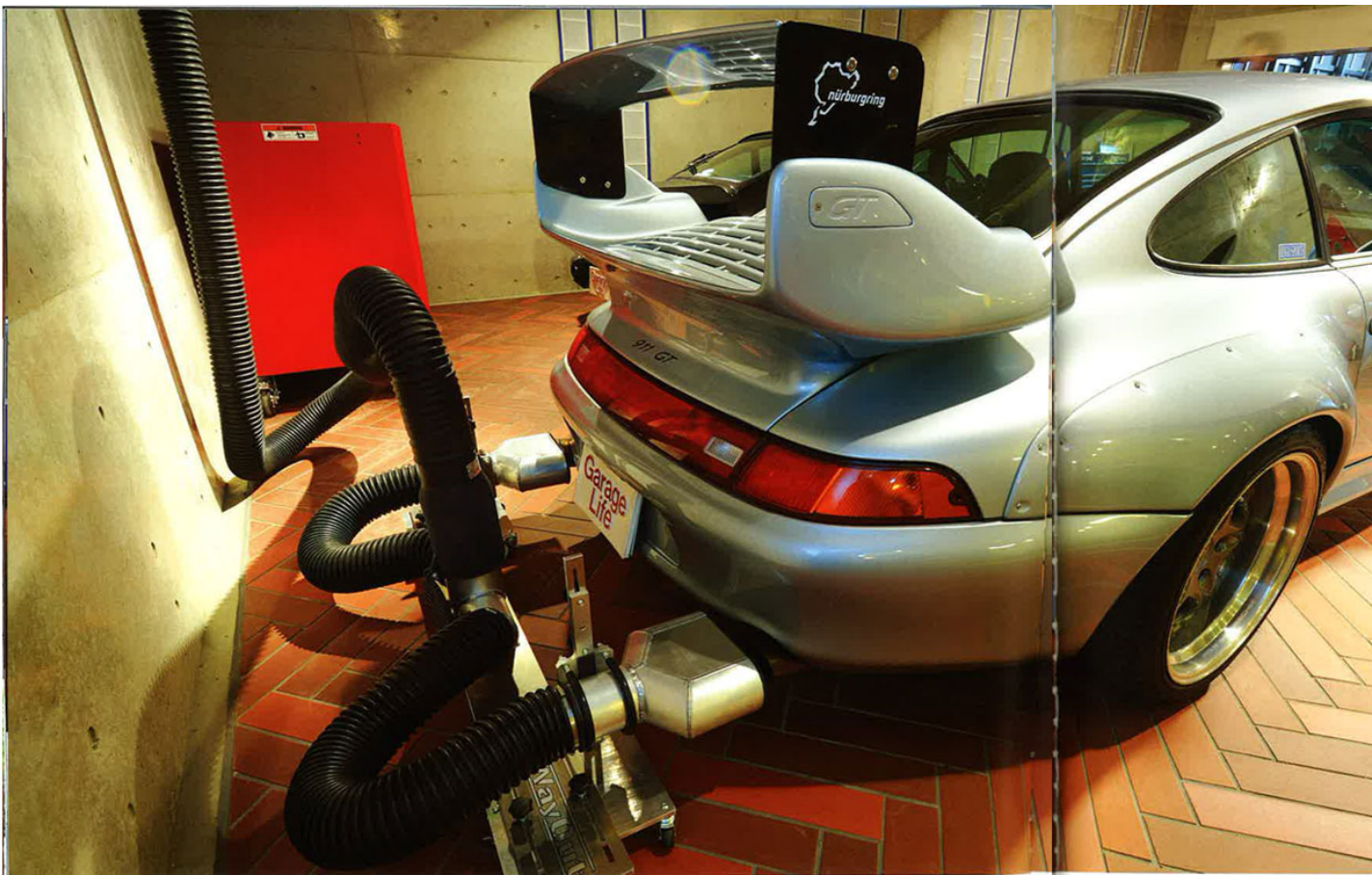
1 「三和シャッター」新オーバードア駆動機構を情熱的なレッドでペイント。クルマの入る位置によりガレージ内はさまざまな表情を見せる。2 ガラスブロックにより採光性の高いガレージとなった。スポットライトによりクルマを照らし、ディテールを楽しめるようにしている。3 ドイツの人気メーカー「ボーゲンボール」キッチンを選んだという奥様。アイランドキッチンは大きくて使いやすい。4 リビングダイニングと、大きなガラス面で結ばれたガレージ。ご主人がガレージ、奥様がキッチンにいても容易にコンタクトが可能だ。

オーダーとなったため、中間モーターを1機追加し、確実にガレージの外に排気ガスが排出できるように設計された。同様に、ガレージ内の換気扇もRCの壁面に設置ではなく、パイプ式のものを取り入れた。また暗くなりがちなガレージ部分には、ガラスブロックによる採光とするなど細かなディテールにまで拘った。

そしてポイントとなっているカラーは、設計事務所からの提案だという。屋根にグリーン、ガレージシャッターにブルー、レッドなど一見、マッチングが難しそうなのをさりげなく取り入れることがN夫妻も大変、気に入っている。やはり、2人の性格を熟知した建築家だからこそ提案し、気に入ってもらえたポイントとなっている。また建物

のシンボルともなる丸い塔には玄関と書斎が用意された。料理研究家として活躍する奥様には、ドイツの高品質キッチン「ボーゲンボール」のシステムキッチンが導入された。「派手な面材だったので心配しましたが、むしろしっくりきました」とは奥様。約2年の歳月をかけて入念に打ち合わせが行われたN邸は、2012年4月に竣工した。デザイン美の美しい建物に仕上がったN邸は、お二人にとって大変満足のいくガレージハウスとなったに違いない。





PLANNING DATA

所在地●大阪府
 施工●Nさん
 竣工●2012年4月
 構造●RC2階建て
 敷地面積●約759m²
 愛車●1996年ボルシェ993 GT2
 1993年ボルシェ964ターボ3.6 他6台

OWNER'S CHECK

- 一番気に入っているところは？
 ガレージが広いのでゆとりがあってよかった
- ちょっと失敗したところは？
 開口がやや小さくて、クルマの出入りを考えたら大きくすればよかった
- 次の夢はなんですか？
 妻のために新しいボルシェが欲しいと考えているところです。
- 読者へのアドバイスを！
 自分たちのライフスタイルを理解してもらえう方と
 ガレージハウスを建てましょう。

COMMENT FROM A BUILDER C

株式会社 天藤建築設計事務所
 天藤久雄さん

ガレージは10台分お願います。N邸の設計打ち合わせの第一声はここから始まりました。これまで私はいろんなタイプのカーキチ・クライアントの住宅設計を数多く手振けましたが、今回は最高です。貴方も、CAR評論家の徳大寺有恒著「ボルシェ911 偏愛学」という本に感化されてボルシェを買ってしまいました。徳大寺氏曰くスポーツカーは「なんと言われようが私はボルシェ911を盲愛、溺愛しているのだ」につきます。ボルシェ同様、奥さんも盲愛、溺愛してくださいます。

神戸市灘区篠原北町3-14-12-401
 phone:078-882-7211
 info@tendo-associates.com



EQUIPMENT style 02

PLANNING DATA & MATERIALS

限定車が納まるガレージ、
 素材にもこだわって施工。





！南西側の外壁をガラスで大きく開口したH邸。語交いを兼ねた枠が十字架を思わせ、まるでチャペルのような佇まいである。23年前に手に入れたというF355。もともとは赤を所有していたが、「白馬」と呼ばれる白のF355を見つけて入れ替え。この白馬で都内をドライブすることが多いという。

“痒いところに手が届く”プランで 理想のインナーガレージを実現した。H邸 東京都

photo/Masatake-ISHIKO (石河正武) text/Emiko-BABA (馬場恵美子) (GarageLife57号掲載)

切妻造の屋根に左右対称の配置でデザインされた大きなガラス壁。まるで礼拝堂を彷彿とさせるこの家は、都内で会社を営むHさんの邸宅である。玄関のドアを開け、最初に導かれるのは2階へと続くステンレス製の階段。その奥には真っ赤なF40が目飛び込んでくる。

Hさんがこの家建てたのは、今から約6年前。“ガレージを中心にした家づくり”というコンセプトが、まだまだ認知されていない頃だったと話してくれた。某ハウスメーカーによる条件付きの物件で建てたというH邸は、設計の段階から難航したもの、思い描くインナーガレージを具現化するため、担当者に粘り強くイメージを伝え続けたことで、理想の家をカタチにすることができ

たという。

完成したH邸は、道路に面した南西側の壁面をガラス張りにしたことで、どの部屋も非常に明るく開かれた空間を実現。1階部分は2台のクルマを縦列収納できるインナーガレージのほかに、広々としたホブスペースと寝室を配置。主な生活スペースを2階と3階に設けることで、Hさんの完全なる趣味空間と家族の生活空間の住み分けを妥協することなく可能にしたのである。また、Hさんがこだわったというインナーガレージは、2台のフェラーリを縦に駐車してもゆったりのスペースを確保。暗くなりがちなガレージ内に外光を取り入れるため、壁側にデザイン性のある小窓を設けるなど、Hさんのセンスあふれるアイデアが



SIMPLE style 02

家づくりと同じようにガレージづくりにおいても、
作り手によって提案されるプランは千差万別。
H邸のガレージは、施主の“こうしたい”というイメージに加えて
建築家によるプラスαの修繕プランにより理想のガレージを作り上げた。



縦に2台駐車しても余裕のスペースを確保したインナーガレージは、Hさんのセンスあふれるアイデアにより完成した自慢の空間だ。



1 シャッター下の隙間から土埃の侵入を防ぐステンレス製の型パネル板。ちょっとしたアイデアだが、このパネルの設置により快適なガレージライフを送ることができるのだ。2 倉島さんがもう一つ提案したのが、「セーフティライフ」の排気システム「EG Way Out」の設置。ガレージ内をクリーンに保つことが可能。3 寝室からガレージを眺めたところ。起床から消灯するまで眺めていたいというHさんの要望により大きなガラスを採用。4 フェラーリの代名詞「跳ね馬」をモチーフにした壁をバックに、Hさんの大好きな「赤いザク」の模型で赤い空間を演出。5 船窓をイメージして特注で設えてもらった丸い窓。その下にはCDチェンジャー。

SIMPLE style 02

ライティング次第で
異なる表情を覗かせる
車好きならではの照明プラン。



1 「赤」をテーマにした空間。奥に見える跳ね馬の旗と、「機動戦士ガンダム」に登場する赤いザクの模型をF40越しに眺めるのがHさんのお気に入り。2 ホビールームの床に埋め込まれたディスプレイケースには、フェラーリのエンブレムを象ったオブジェが収められる。

取り入れられた。

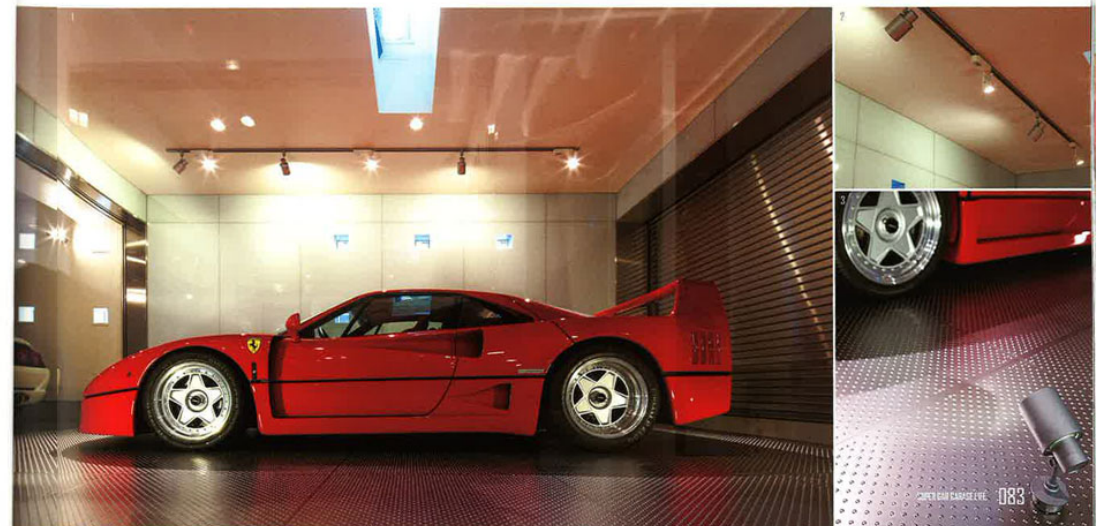
さらに、継ぎ目のない大きな一枚ガラスの設置は、ストレスなく愛車を眺めることができるよう特注でオーダー。設計の段階からフェラーリがより美しく、より格好よく見える高さを緻密な計算で割り出し、大きなピクチャーウィンドウをイメージして設置。一日の生活を通してさまざまな角度から眺められるよう、それぞれのフロアの高さはあえて変化の富んだ設計に。一段低い位置に置いたソファからフェラーリを見上げる構図は、船の出航をイメージして配置。寝室から見下げる構図やホビールームから階段越しに見るフェラーリも、お気に入りのビューポイントなのだという。

そんな憧れのインナーガレージを手に入れたHさんだったが、住み始めていくつかの不都合が見えてきたという。中でも一番の悩みは、シャッターの隙間から吹き込む土埃の侵入だ。そこで、風

の侵入を防ぐ対策をインターネットで調べていたところ、たまたま目にした「Kurashima design office」のサイトを見て、ガレージづくりに造詣が深い倉島さんにさっそくコンタクト。ステンレス板をL型に加工したパネルをシャッター下の隙間に沿って置くことで、土埃の侵入を防ぐことができると提案してもらったという。他にも、フェラーリの美しさが際立つ照明プランや排気ダクトの設置など、些細なことだが倉島さんのちょっとしたアドバイスのおかげで、ガレージの中が一気に輝きを放ち始めたという。

今でこそ、ガレージに理解のあるハウスメーカーや工務店も増えてきたが、施主の要望以上の提案ができるのは、クルマやガレージの魅力を知り尽くした作り手ならではのアイデアがあつてこそ。H邸のガレージは、まさに「輝いところに手が届く」プランにより実現した理想の空間なのである。

1 ソファに座って眺めたところ。このアングルは出航する船をイメージして設計。外光を取り入れるスクエアの小窓もデザインとして機能。2 天井のスポットライトは当初3灯だけだったが、倉島さんの提案でさらに3灯を追加。それによりF40の美しさが一段と増したという。3 下から照らすスポットライトはHさんのアイデア。夜な夜なウィスキーを飲みながら最適な光の角度を見つけている時が楽しいそうだ。



SIMPLE style 02

PLANNING DATA & MATERIALS

色と質感にこだわることで
統一感ある空間を演出。



「青」をテーマにしたホビールームからF40を眺める。「ブルーとレッド」のコントラストや「ステンレスとガラス」の質感の違いを楽しむのが好きだという。

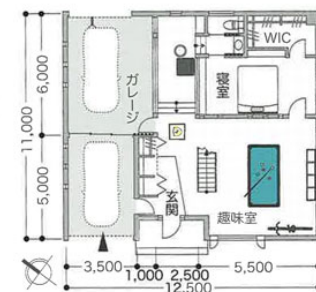


COMMENT FROM A BUILDER C

Kurashima design office
倉島理行さん
(建築家)

最近の動向として、本体建設はメーカーさんに依頼し、特殊な部分は、専門の建築家に依頼する「設計監修」が増えてきております。シャッター周りの埃流入防止やガレージクレーン化、車の陰影を楽しむライティングプランなどをプロと相談し盛り込んだガレージ。これからは一緒に「Car Life」楽しめましょう。

埼玉県さいたま市南区内容6-3-15 3F
Phone/0120-301-004
<http://www.kurashima-design.com/>



PLANNING DATA

所在地●東京都
施主●Hさん
竣工●2007年8月
構造●鉄骨造
建築面積●約330㎡
ガレージ面積●約44.5㎡
愛車●フェラーリF355ベルリネッタ/フェラーリF40
/マセラティ・グランスポーツ MCV / 日産フェアレディ
240ZG (1970年式) / マツダ・ロードスター (NA8C) /
マツダRX-7 (FC3C)

OWNER'S CHECK

- 一番気に入っているところは？
緑が目立たない大きな一枚ガラス越しに見るインナーガレージとそこに収まる愛車たち。
- ちょっと失敗したところは？
ガレージのシャッター下の隙間だったが、倉島さんの修繕プランであるステンレス板の設置により解決した。
- 次の夢はなんですか？
所有するNA8Cでドリフト走行をサーキットに通って練習中。いずれはFC3Cでもドリフトしてみたい。
- 読者へのアドバイスは！
ガレージも家づくり同様に、自分の理想とするイメージをしっかりと持ち、どんな空間にしたいかを明確にしておく、問題にぶつかってもクリアできると思います。



「青」をテーマにしたコレクションたち。パイプとボールでフレームを組み、自由に空間を楽しめるスイスの家具「USM Modular Furniture (Haller)」はHさんお気に入り。②こちらのミニチュアカーは別の棚にあったのだが、Hさんがこれまで所有してきた車の模型たち。中でも240Zはアメリカに留学していた頃に手に入れた車で、実は現在も所有しているという無類の車好きだ。③momotoのヘルメットやミニチュアカーなどもブルーでコレクション。④Hさんの自乗車を探しに行ったお店で見つけた自乗車。ブルーにマットの質感が気に入ってオブジェとして購入。白い壁に映えるユニークなアイデアだ。⑤青をテーマにしたホビールームには何とあのイチロー選手のユニフォームが、某オークションサイトで手に入れたという。⑥「青」をテーマにしたホビールームに設置するのは、フランスから取り寄せたというビリヤード台。最近、子供たちの卓球台になりつつあるという。

